

平成30年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書の公表における
教育長コメント（11月6日）

- 平成30年度全国学力・学習状況調査を詳細に分析し、北海道版結果報告書として取りまとめました。

本報告書は、教科に関する調査と質問紙調査の結果について、全道や管内・市町村の状況を多角的な観点から分析し、成果と課題を示すとともに、教育委員会や学校等における学力向上の取組の参考となるよう、課題の解決に向けた方策と事例を掲載しています。

- 本道の状況は、中学校の国語Aと理科で全国の平均正答率を上回り、他の教科においても、正答数の少ない子どもの割合が減少するなど、改善の傾向が見られます。一方、学校が検証改善サイクルの確立に取り組んでいるものの教科に関する調査結果にその効果が十分に現れていない、ゲームなどを行っている児童生徒の割合が全国よりも高い、などの状況が見られることから、校長のリーダーシップによる組織的な授業改善や、学校と家庭が連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組を一層充実させる必要があると考えています。

- 道教委では、本道のすべての子どもたちが、社会で自立するために必要な学力をしっかりと身に付けることができるよう、学校、家庭、地域、行政が一体となって、北海道の将来を担う子どもの姿を共有し、学力向上に向けた取組を一層推進してまいります。

教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様には、本道教育の推進に向け、引き続き深いご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。